

キアゲハ

昼食している近くでウグイスがやたらと囀るので、発生源を確認したく近づきましたが、姿を見ることはできませんでした。2014年5月19日、藻岩山幌南の森の最上標高のスキーリフト終点でのことでした。アゲハチョウが飛んでいるのに気づきました。小型でしたので、もしやギフチョウか?と緊張しましたが、この場所では確認できませんでした。



午後の作業を開始して間もなく、スキーリフト路線で同じ型の蝶が飛んでいましたので確認できました。キアゲハの♂でした。一定のテリトリーがあるようで、その範囲をいったりきたりパトロールしているのです。キアゲハの別の固体と接触しますと、激しくもつれあって追い払うのでした。

数年前にこの時期三角山の頂上でキアゲハが集合して乱舞するのを見たことがあります。キアゲハの習性で山頂付近に集まり、交流会を開くようなのです。繁殖の相手とめぐり合う機会を作っているものと思います。この状態をよく知っている元会員の石島氏と三角山愛好者たちがキアゲハを札幌市の蝶として認定するように市に働きかけたのですが、Wikipediaで札幌市を検索しますと、木:ライラック、花:スズラン、鳥:カッコウと記載されていますが、蝶はありません。未だ申請は承認されていないようです。ライラックは外来種、スズランとカッコウは絶滅危惧種で滅多なことではお目にかかれなくなっています。それらに較べるとキアゲハの方が相応しいと思う次第であります。

キアゲハの仲間は分布は広くてほぼ地球の温帯全域に生息しているようです。日本のキアゲハも屋久島を含むそれ以北の全域に棲息しているようです。



幼虫のイモムシも一目でそれとわかるいでたちで、セリ科の植物で育ちます。北海道ではオオハナウドが食草となっています。本州ではニンジンやセリなど野菜の害虫として嫌われています。

この時期に出現しているのは春型で、これの二代目が夏型となり、春より気持ち大きく、羽根の色彩のコントラストも若干濃くなります。数年前に「蝶トランプ」を描きましたが、裏のデザインをキアゲを向いあわせていますが、左右の羽根が違っていません。頭を上にして左が春型、右が夏型の羽根色にしました。お手持ちのトランプでご確認ください。

